

*** 今日の健康 (2月) ***

< アルコール依存症 その2 >

< アルコール依存飲酒の、全身へもたらす悪影響 >

アルコールの直接的・間接的な作用、アルコール代謝産物であるアセトアルデヒド、また食べずに飲酒することによる栄養不足から様々な病態があります。

消化器系：脂肪肝、アルコール性肝炎やアルコール肝線維症、肝硬変、膵炎、食道癌等の消化管の癌、胃粘膜病変、痔核等

内分泌・代謝系：糖尿病、高脂血症、痛風等

循環器系：心筋梗塞、心不全、高血圧、脳梗塞・脳出血、不整脈、末梢血管障害等

神経系：ビタミン B1、B6、B12 の不足によるアルコール性末梢神経障害、ビタミン B1 の欠乏で起こるウェルニッケ脳症、小脳が萎縮するアルコール性小脳失調症等

< アルコールの離脱症状 >

体内のアルコール濃度の低下により自律神経症状や情緒障害、手の震え、幻覚などの症状がみられるようになります。

早期離脱症状は飲酒を止めて数時間すると出現し、手や全身の震え、発汗（特に寝汗）、不眠、吐き気、嘔吐、血圧の上昇、不整脈、イライラ感、集中力の低下、幻覚（虫の幻など）、幻聴などがみられます。

後期離脱症状は飲酒を止めて2~3日で出現し、幻視、見当識障害（自分のいる場所や時間が分からなくなる）、興奮などのほかに、発熱、発汗、震えがみられることもあります。これら「離脱症状による不快感から逃れるために、さらに飲酒するという悪循環に陥ることもあります。



< 治療 >

アルコール依存症の治療は、専門知識をもった医師によって行われます。

「自立支援医療費支給制度」という公費負担制度の利用も可能です

- 1.断酒、断酒補助剤、離脱治療、合併症の治療、精神安定化、ストレス対処法
- 2.心理社会的治療として（酒害教育、個人精神療法、集団精神療法、自助グループへの参加）患者個人により、治療を組み合わせる実施します。アルコール依存症からの回復（断酒継続）には数年という長い時間がかかります。一般的に約3年間断酒期間が継続すれば、ようやく安定した日常生活を送ることができるようになりますといわれています。